

はばたき



1988.7 NO.24
神戸市立王子動物園

コアラの未来は？

この春、オーストラリアのブリスベン市郊外にあるローン・パイン・コアラ動物園を訪れました。市の中心部より南西に7~8kmのところにあります。そばに市内を見下ろせるクータ山があり緑の多いところでした。日本のある動物園経営の会社を買収したということで物議を醸したところです。

園内は非常に質素で、動物舎も簡単な造りで、コアラを中心にオーストラリアの動物が展示されておりました。コアラ舎はトタン葺で囲りは1mほどの高さのコンクリートで囲ってあるだけで、人止柵もありません。そこにユーカリの幹を立てて1頭ずつ止まらせてあり、給餌用の筒がとり付けてあるだけのもので、日本のコアラを飼育している動物園の金のかかった設備などは一つもなく、アツケラカンとしたものです。原産地の強みとだけでは何か割り切れないものを感じました。他の動物たちも同じ様なもので、ただ大きく違う所は、野生のインコがたくさん居着いていることと、少しばかりのアジア系の鳥類が飼われていることでした。

ストレスに弱いコアラが写真のモデルとして稼いでおりました。ポラロイド写真でお客さんが抱いているところをフラッシュを使って撮影します。5ドルです。その場では自分のカメラではいくら写しても良いのです。ずいぶんストレスに強いコアラか、その様に馴らされてしまったのかと気になりました。奥の方には、3haぐらいの広場に沢山のオオカンガルーが放されており、囲いの中には出入り自由です。

丁度奈良のシカの様な感じでカンガルーとのスキンシップが図れるようになっていました。

全体的に自然の中に動物たちが溶けこんでいるようでした。

ただ、この動物園でも100頭のコアラのユーカリには苦勞しているとの事で、飼料になるユーカリの葉を手に入れるためには段々遠くまで行かないと調達できないようです。も

ちろんユーカリの栽培はしておりません。

近くのものから採取しておれば自然とそうなります。

20万頭もいるコアラも年々山火事や交通事故などで命を落としております。またコアラを守るためのボランティア活動もされているようです。

白人社会になって200年の建国記念日が今年、国を挙げて盛大に行われておりますが、コアラたち動物と原住民のアボリジニーにとっては何が建国かと思っていることでしょう。先住民族のアボリジニーの将来とコアラたちの未来は何れも明るくはないと思われるのです。

ただこの広大な国土を持つオーストラリアの人々の動物愛護に対する考え方は世界で一番進んでおり、真剣に取り組んでいるところに幾らかの救いがあります。

神戸市立王子動物園長 福岡 順三

も く じ

◆コアラの未来は？	2
◆王子動物園の野鳥	3
◆動物育児日記	
●今年生まれのヨザルより一言	5
◆新しい仲間	6
◆鳥のくちばしと人の道具をくらべてみましょう	8
◆飼育うらばなし	
●タンチョウの繁殖	10
●猛獣たちの水浴	11
◆動物なぜなぜ問答	
●動物は歌を歌いますか？	12
●ライオンのタテガミは役立つのでしょうか	12
◆動物もの知り手帳	
●動物たちはいつ眠っているのでしょうか	13
◆動物科学資料館の手引③	14
◆トピックス	15

表紙写真 アカエリマキキツネザル
(撮影 福田元二)

王子動物園の野鳥



シジュウガラ

王子動物園では、昨年の6月から飼育係による野鳥の観察を行ってきました。その結果、一年間で4目14科31種もの野鳥を観察することができました。このように多くの野鳥を観察することができた原因は、一つ目には、当園が六甲山の麓に位置すること、二つ目には、当園は街中にありながらも多くの樹木があり、林の中の動物園という形態を持っていることが考えられます。

このように当園には多くの野鳥が訪れますが、いつでも、だれにでも見れるというわけにはいきません。そこで、観察の手引きとして、当園ではいつ、どこで、どのような鳥が観察できるかをお話しします。

観察に適した季節

図1には、月別に何種類の野鳥を確認したかを示しました。これによると夏には種類数が少なく、冬を中心に秋から春にかけて多くなるこ

とがわかります。また冬には落葉樹が葉を落すので、野鳥も見えやすくなります。それに冬の寒い日には、入園者も少なく鳥が多く訪れるようです。これらのことから、最も野鳥の観察に適した季節は冬と言えるでしょう。

季節と野鳥

季節により訪れる野鳥の種類数が変化するように、その季節によって見られる鳥も異なります。次には各季節にどのような鳥が見られるかを示します。

1. 年中見られる鳥

キジバト、ヒヨドリなどは当園で毎日必ず見ることが出来ます。この他には、シジュウガラ、コガラ、コゲラ、セグロセキレイ、ムクドリ、ウグイスが一年を通じて見ることが出来ます。この中でセグロセキレイはサイの運動場でよく見かけます。また樹上には、シジュウガラやコガラを見かけます。この中でコゲラは、小さい

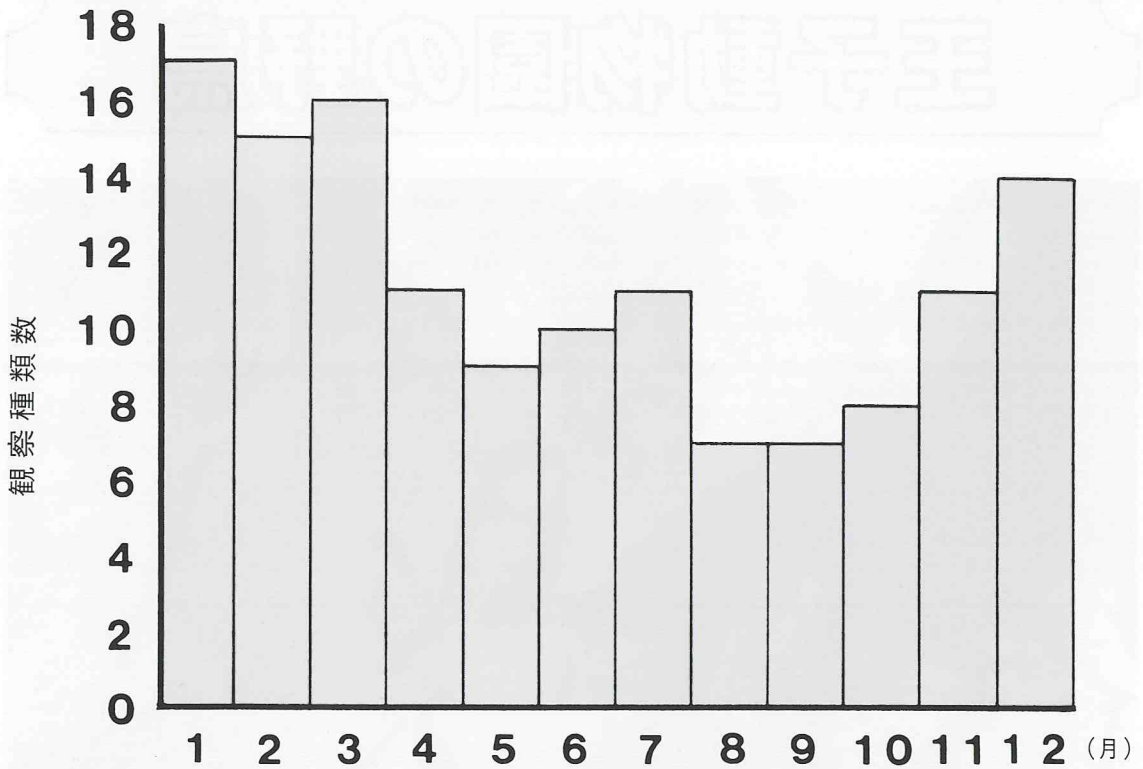


図1 野生の月別観察種類数

ながらもキツツキの仲間で、木をたたいて虫を取っている姿が見られます。

秋から春にかけて見られる鳥

この季節に見られる鳥は、姿が美しいものが多く、当園ではモズ、ジョウビタキ、シメ、イカル、ツグミ、ハクセキレイ、シロハラ、クロジ、メジロ、エナガが確認されています。特にメジロやエナガは群れを作るので、わりと簡単に見ることができます。

春から夏に見られる鳥

この季節は、最も野鳥が少なく、観察にはあまり適していません。しかし、この季節にしか見られない鳥もあります。当園では、夏鳥としてツバメとコシアカツバメが見られます。これらは街中でもよく見かけますが、当園では、サイの運動場で巣材を運んでいる姿を見ることができます。

まれに見られる鳥

当園では、一年間に数回観察した鳥がいます。このような鳥は、六甲山には比較的多く生息しており、まれに動物園に下りてくるようです。今回の調査では、メボソムシクイ、センダウム



ツグミ

シクイ、カワラヒワ、コルリ、コイカル、カシラダカ、ノビタキ、ゴイサギが確認されました。

当園で飼育している日本産の野鳥

野生では絶滅したコウノトリをはじめ、タンチョウ、ニホンキジ、コジュケイ、フクロウ、や水鳥としては、カモメ類やカモ類を多数飼育しています。

動物園に来られたときには、ぜひオリの外の小鳥たちも見てやって下さい。 (兼光秀泰)

動物育児日記

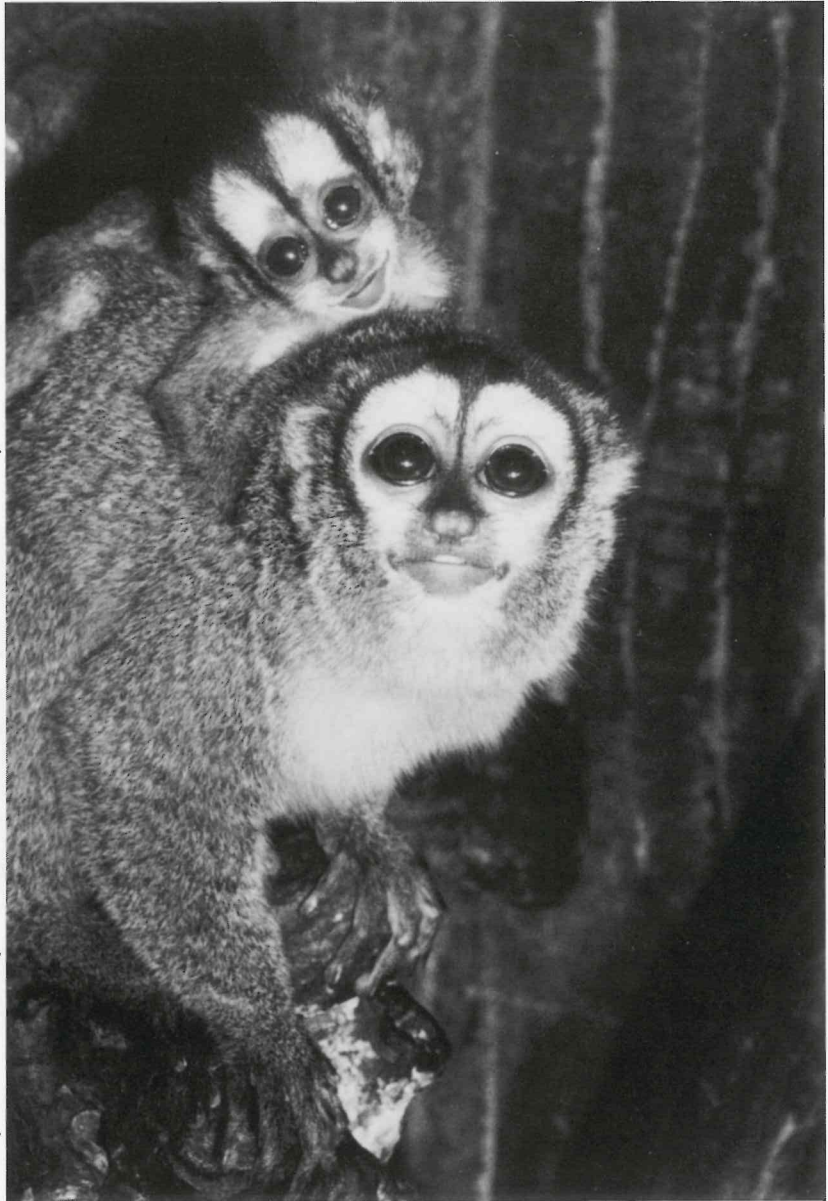
◆今年生まれのヨザルより一言

今年の4月11日の夕方、私はこの世に体重70gで誕生しました。歯はまだ生えていなかったが、体毛等は両親と同じように生えていました。約1ヶ月で倍になり父親の背で遊ぶようになりました。歯も40日目程で生え、バナナを食べられるようになりました。私の生活環境は一年中26℃の温度で湿度は70%程の変化のない世界です。夕方になると、飼育の人が入ってきて清掃し、食べ物を置いていってくれます。私共が夕方といっているのは人間世界では朝だということです。私の住んでいる世界は人間が造りだした人工の環境で、私の祖先が住んでいた南米の環境を神戸の王子動物園に造ったものだそうです。今の時代には古い言葉になりましたが省エネ対策とかで太陽エネルギーを利用し、冷暖房を行っているそうです。

私共、家族は人工の環境に満足しています。なぜなら、お父さんも、お母さんも、姉さんも元気に毎日すごすことができるからです。

姉さんは昭和61年生まれで、私より2才上です。彼女は生まれて3週間程してから父親の背中で育ったそうです。私も今、父親の背中にいます。

私共ヨザルは、父親が子守をするそうで、私も乳を飲む以外はこうしておとうちゃんの手の中にいます。なぜそんなことをするかって？それは、よらば大樹の影ということだと思います。そ



れに私のおとうさんはとてもやさしいからです。

飼育の人が、いつも美しいステンレス製の食器にリンゴ、ミカン、イモ、パン、レタスなど沢山の物を置いていってくれます。ビタミンやミネラルなども添加してくれます。決して我々を無理やり捕えることはありません。ですから

私が、男か女か、今だに分らないで困っているようです。ただ、日曜日に沢山の人に見られるとき少々緊張します。しかし、これも生活のためとあきらめています。あとはのんびりとした生活ですので、我家は争いがありません。隣のインドオコウモリ舎は大帯帯なので、一夜中うるさいのですが、彼らも夜行性ですので、我々が眠るときは同じように眠ります。その点、昼間の睡眠時間を妨害されることはありません。

お客さんは我々のことをフクロウに似ているといいます。私はレッキとした霊長類の仲間です。体長も大人になれば30cmにもなります。尾は30cm程に伸びます。体重は1kg近くになります。先祖は木の穴の中で生活していたようです。

私達は木製の巣の中で安心して住んでいます。

夜行性ですので目は大きく、とてもカワイイ動物だという人もいます。人気の秘訣はこの大きな目と顔の模様ではないかと思っています。

私は、まだ小さいので模様はハッキリしてい

ませんが、写真のとおりお姉さんもお父さんも中国の京劇にでてくる猿のような顔をしています。私はすばらしい顔をしていると思っています。

お父さんは子供が生まれて、暫くするとこの小さな世界にもイナズマが光るときがあると聞いていました。そして、イナズマが光ったときの子供は育つと聞いていました。本当だろうか。

私も生まれてから暫くしてこのイナズマを見たので、長生きするだろうと両親は聞いていました。私はなぜイナズマが光るのかなと考えていましたら、飼育のおじさんが、今年の子供は元気そうだから、テレビ公開しようとかいっていたので、その公開時のフラッシュの光だったのだと気付きました。お父さんも、お母さんももの考え方が硬いので、この辺のところが理解できなかったのでしょうか。それでも私はお父さんの背中で遊ぶのが大好きです。皆さん、一度、私の住んでいる王子動物園の太陽の動物舎に遊びに来て下さい。小さな熱帯の世界を見ることができると思います。ではまた、さようなら。

(岡本正勝)

新しい仲間



カピバラ

この動物は南アメリカのパナマからアルゼンチン東北部にかけてアンデス山脈の東側に生息している動物で、現在地球上に住んでいるげっ歯目の中では一番大きな動物です。最も近縁なのはテンジクネズミ（モルモット）で、体型もテンジクネズミを大きく拡大したような体格をしており、成獣になると体長1~1.5m、体高50cm、体重50kg以上になります。豚のようなずんぐりした体形で、「カピバラ」という名前はミズブタを意味しています。尾は短かく、前足は後足より短かく、前足には4本、後足に

は3本の指があります。またそれぞれの指の間には小さな水かきがあり、水の中を泳いだり5分間ぐらい潜ったりすることもできます。排便や排尿はほとんど水中でしますので、動物園で飼育するときは必ずプールが必要になります。カピバラは、草食動物で野生では川や沼、湖の周辺に10～40頭もの集団をつくることがあります。ときには100頭もの大集団を作って住み、生えているイネ科の草を、げっ歯目に特有な2対の大きな門歯で採食します。動物園で飼育す

るときは、キャベツ、ニンジン、青草（イネ科の牧草）、草食獣用ペレット等を与えています。カピバラの繁殖は、生後約18ヶ月で成獣になり、繁殖が可能になります。ベネズエラやコロンビアでは1年中繁殖し、ブラジルでは1年に1回繁殖します。交尾は水中で行われ、雄が雌の背中に馬乗りになって交尾をするため雄の体重で雌が水中に沈んでしまうことがあるそうです。交尾後約150日で出産し、1回の出産で2～8頭の仔を産みます。寿命は8～10年です。

ヤギ(三ミナガヤギ)

野生のヤギは、長い年月の間に人々によって飼いならされ家畜化し、品種改良が進みました。ヤギ乳を搾乳するために品種改良されたものを乳用種、肉を取るために改良したものを肉用種、また乳、肉を取るために改良されたものを乳肉兼用種といいます。その他、毛を取るために改良されたカシミヤ、アンゴラ種もあります。国内にも乳用種のザーネン種が取り入れられ昭和30年～40年頃までは農村部で飼われていました。ヤギ乳は牛乳より栄養価が高いと言われ、子供の頃にヤギ乳を飲まれた方も多いと思います。ザーネン種はスイス西部のザーネン川流域の原産で、体色は白色、角は有角と無角があり、体重は雌で60～80kg、雄では80～120kgになります。乳量はヤギの中で一番多く、1年間に、800～1000kgを生産し、牛乳びん(200ml)に換算すると4000～5000本にもなります。



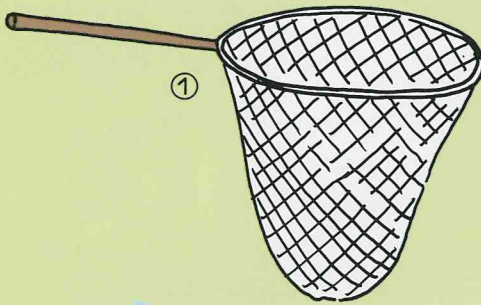
ザーネン種は性質は温順であるため、全国各地で飼育されていましたが、現在では飼育されているのはまれです。当園にもザーネン種の雌が1頭飼育されていますが、性質がおとなしいので入園者に可愛がられています。このほかに肉用種のトッケンブルグ種が飼育されていました。原産地はスイス北部で、体毛は細くて長く、体色は薄い黄褐色または褐色で、頭部と四肢は白

い模様があります。体重は雌で45～50kg、雄65～80kgで、ザーネン種より一回り小形で肉用種ですが、年間に700～800kgのヤギ乳を生産します。このたび当園に宮崎のフェニックス自然動物公園から来ましたミミナガヤギはパキスタン原産のヤギでわが国へは少数が輸入されているのみです。
(福田豊光)

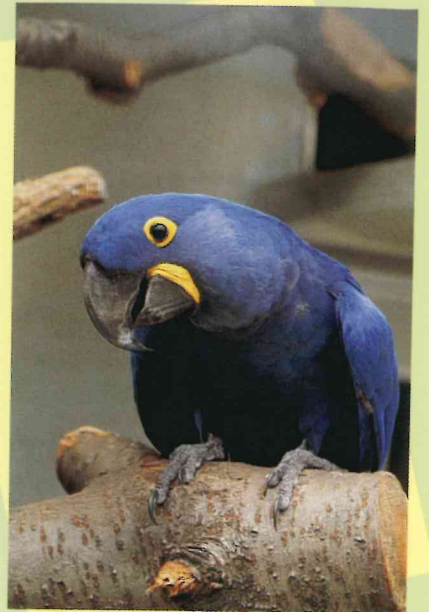
鳥めく
人のめ
しらべて



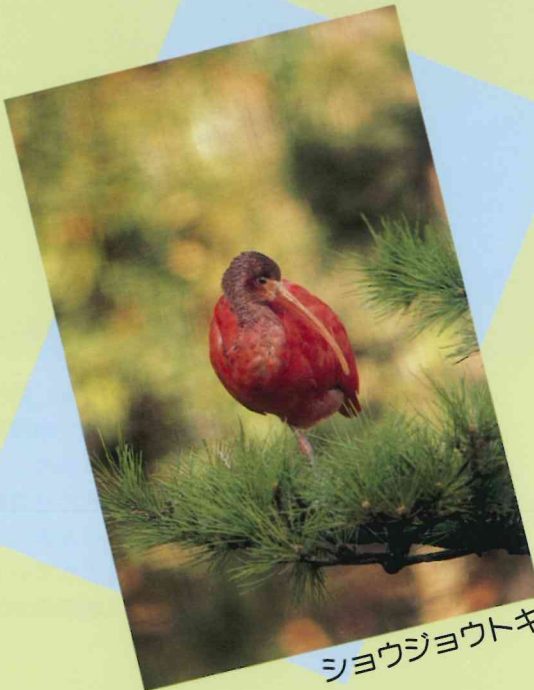
フラミンゴ



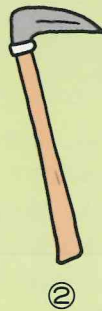
①



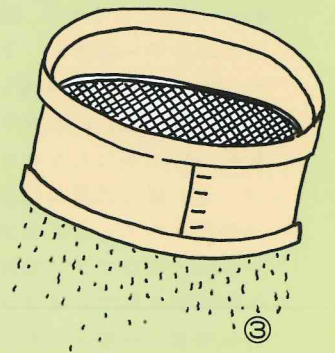
インコ



ショウジョウトキ



②



③

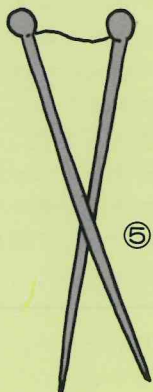
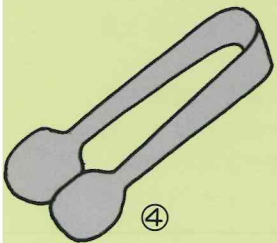
らばしと
道具を
きましょう



ヘラサギ



ペリカン



オジロワシ

●解答は15ページにあります

飼育うらばなし

◆タンチョウの繁殖



タンチョウのヒナは可愛らしい。親鳥は体重9キロ程ですが、生まれたてのヒナは、わずか250gで、大きい鳥に「ちっちゃな、ちっちゃな」鳥と言った感じがします。

ヒナの誕生は、飼育が順調に続いてきた証で、今までやってきた事、その答えを皆様に見てもらおうときでもあります。

王子動物園では、タンチョウの飼育を始めてから12年になりますが、その間8羽のヒナが生まれて大きく育っています。

そこで、今回はタンチョウのヒナが誕生に至る裏方のお話しをしてみたいと思います。

タンチョウは、3才から4才で一人前の大人になります。一度番になると一生離れません。春4月お互いにかん高い声で鳴き出し、あの優雅なタンチョウの舞が盛んになる頃、人工巣を作ってやります。まず、舎内で一番水はけの良い、安心して抱ける場所に、直径1m20cm程の土盛りを作ります。

その上に、ヨシズ、タケホウキの先端部分を押し切りカッターで2~3cmに小切りにして、足で「なんどもなんども」踏んでやわらかくして土盛の上に置きます。今までに巣材として、

乾草、稲わら、小枝等を入れましたが、腐りが早くてだめでした。

ヨシズと竹ホウキの先が水分の吸収が少なく、その上、乾きが早く巣材として一番良いと思います。

〔交尾、産卵〕卵はかならずとっていいほど2ヶ産み、オス、メス交替で抱き続け、「32日」でヒナが孵化します。

生まれたヒナは薄茶で白い斑点があり、全体が綿毛につつまれ、数時間後に親鳥の後ろについて歩きます。

ヒナが生まれると、親鳥は気がふれたようにするどく襲いかかってきます。

この時期が一番気をつけて飼育しなくてははいけません。

ある時、餌を入れている鉄製のバケツに攻撃され無防備となり、舎外にびつくりして飛び出したこともあります。

ヒナは2羽かえりますが、2羽共が成長するのはまれで、途中で成長の早いヒナにいじめられ、1羽が死んでしまうこともあります。

3ヶ月もすると親鳥と同じ大きさに成長し、この頃より盛んにはばたきをします。そして、飛ぶ練習をします。つまり、野生で言う巣立ちの学習をします。

ところがそれをじっと見てみると、親鳥のこれまでの鳴き方が変わり、ヒナを追いはらう行動に出るのです。子別れの時期がきたのです。親鳥も来春にやってくる繁殖に、ヒナがじゃまになるのです。それをほっておくと、皆さんどうなると思いますか。ヒナは逃げ場をうしない、親鳥につつかれ、つつかれて死んでいくのです。事故が起きてからではどうしようもありません。

ここだ、と思う時期にすばやくヒナを分離するのです。動物園と言うせまい所で飼育していると、分離したヒナどうしが仲良くなってつがいとなり、近親繁殖をすることがあります。

それを許しておく、と、産卵数が少なくなり、体に欠陥のあるヒナ等が生まれ、しまいには絶滅してしまうのです。

そこで、世界の動物園で飼育しているタンチョウを国際登録して、近親繁殖しないようにしています。

王子動物園でも昨年、中国天津動物園から2羽のメス、東京多摩動物園からオス1羽、あやめ池動物園よりオス1羽を交換し、また譲り受けて繁殖に力をいれています。

動物園に来てタンチョウを見られたら、ただ「美しいな、可愛いね…」だけではなく、こうして裏方で、なんとか繁殖させようと頑張っていることも忘れないでいて下さい。

(鈴木 忠)

◆猛獣たちの水浴



ライオン、トラ、クマの中でも、水浴が大好きな動物、反対に水が嫌いな動物もいます。

この猛獣たちの中で季節を問わず水が好きなのは、なんといっても北極クマではないでしょうか。北極周辺に住むこのクマにとっては、泳ぎの上手、下手は日常主食としている獲物の捕食時に差が出ます。したがって、泳ぎや水浴がただ好きだというだけでなく、水中では自由自在に行動が出来ます。暑い日本の動物園では、放飼場の半分近くをプールが占めています。反対に水浴が嫌いな動物を上げると、これがなんと百獣の王ライオンなのです。ライオンは、体に水が掛かる事さえ嫌います。こんな事がありました。初めてライオンが動物園に到着しました。オリの中で二、三日飼育し、朝夕の出入を教えます。中には覚えの悪い個体もいます。今日も出入口を開け待つこと五分。いっこうに外に出ようとしません。ホースで水道水を少し掛けると、あわてて放飼場に飛び出しました。が、

が、トラには通用しません。

7月のムシムシと暑い朝でした。出入口の扉を開けても、なかなか放飼場に出てくれません。日常よくある事で、今日はきげんが悪い様です。水を掛けてみました。この暑さなら大量に水を掛けても、カゼをひくこともないだろう。思い切りジャージャー掛けました。するとトラはその場で体を横にし、手足を上げ右へ左へ体を床にこすり付けながら、ウォー、ウォーと喜んでいきます。よく考えてみると、トラは水浴びが大好きなのです。人工哺育で育ったこのトラは、きっと「このおっちゃん、朝からよく気が付く人やなあー」と思っ

いたのかもネ!!

次にクマをよく観察してみると、「長プロ」ならぬ「長水」をよくします。特に日本に住むヒグマ、ツキノワグマなど、一度プールに入ると二、三十分はゆっくりとつかります。家庭用のお風呂を少し大きくしたぐらいのプールですが、とても気持ち良さそうです。プールの中では、体全体を大きな手足で爪を立てながら、ゴシゴシ、ゴシゴシこすります。体に付いたホコリやフケを丹念に洗います。意外と清潔好きなのです。ただ、水道代が高くつくのが気かりですが、プールが小さく夏は水温が上がるため、朝夕の2回、20~30分程度は冷たい水を出してやりませう。水温の低い山の清流で、一度思い切り水浴をさせてみたいものです。

今年は、トラのプールを観察しやすい場所に新設しました。一度見学に来て下さい。7月~9月始めの午前10時頃から2時までが、よくプールに入る時間帯です。

(岸田一也)

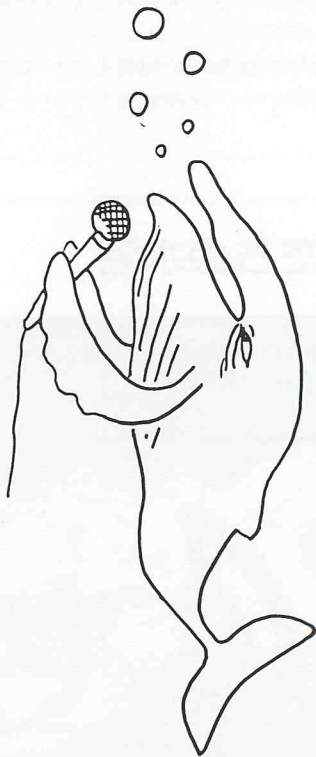
— 動物 なぜ なぜ 問答 —

●動物は歌をうたいますか？

「小鳥はとっても歌がすき……」という童謡があります。でも、人間には歌のように聞こえる鳴き声も、動物にとっては大切な会話であることが多いのです。愛の気持ちを伝えたり、なわばりを宣言したり、危険を知らせる時に動物はうたいます。

実際に歌をうたう動物で有名なのはクジラでしょう。海の底でうたう“クジラの歌”には、合唱や御当地ソングもあるそうです。神秘的な歌声は人間の音楽家の心をもとらえ、クジラと共演したレコードも出ています（ただし合成ですが……）。このような歌とよべる鳴き声も、やはり仲間の結束を固めるという、大切な役割を持っています。

ちなみに、先の童謡の続きである「母さん呼ぶのも歌でよぶ……」は、「母さん呼ぶのも（人間の耳には）歌で（呼ぶように聞こえる鳴き声で）よぶ」というように通釈するのが正しいようですが、少し無粋でしょうか。（村田浩一）



●ライオンのタテガミは役立つのでしょうか



ネコ科のうち長いタテガミをもっているのはライオンのオスだけです。

生後2年でおとなの大きさになり、タテガミが生えるのは3年位からで、立派な姿になるのは4年後です。その後は茶色から黒いタテガミになってきます。

タテガミはオスであることを示し、争うときには首を咬まれても毛で体を守ることになるでしょう。

しかし、大きなタテガミをもっているので、オスはあまり敏しょうに動けません。

トラやヒョウはオス、メス離れて暮しますが、ライオンの家族はオス1頭とメス2～3頭とその子供たちとで暮しています。その家族群をプライドといいます。餌物は敏しょうなメス親2～3頭で襲います。オスは、その反対側でタテガミをふりかざして大声で吠えたり、狭みうちにするといいます。

動物園でも係員に襲ってくるのはいつもメス親でオスは吠えるだけです。

ネコ科でもトラやヒョウ、ジャガーなど体に縞や斑点のあるのは森林の中で待伏せするの役に立ちますが、ライオンは土の露出した平原で暮しているの土色をしているのです。（亀井一成）

動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお!～

動物達はいつ寝ているのでしょうか

木の葉のさざめきの他、物音一つしない真夜中の動物園。足音をしのばせて、動物達は眠っているのかな!と見てまわります。

静かに近づいていってももう人の気配を感じるのか、じっと私が近づくのうかがっているのは、ラマ、シフゾウ、シマウマ、キリンなどの草食動物達です。何度か夜中に動物達の様子を見に行きましたが、眠っている様子を観察したことはありません。

彼らと比べてゴロリと横に寝そべっていて、私が近づいてもピクリとも反応せず、ぐうぐう眠っているのは肉食動物のトラ、ヒョウ、山猫達です。サル達もあまり反応は無く、電灯で照らしてみても、眠そうに、「何だ、こんな時間に、うるさいな!」といった顔で目をしょぼつかせながらこちらを見えています。

草食動物達は少しでも物音をたてると、さっと木の陰に走り込み、顔をこちらに向けて、危険でないかどうかを、首をのばしてうかがっています。

なるほどなー!と私は一人でうなずきます。

野生で暮しているときの草食動物達は肉食動物のライオン、トラ、ヒョウといった猛獣にいつ襲われるか、と戦々恐々と気の休まるひまなく生活しているのです。

見通しのきくサバンナを生活の場としている彼らは肉食動物にたえず襲われる危険にさらされています。栄養の少ない草を大量に時間をかけて食べなければならないので、ぐっすり長時間眠るひまが無く、少しづつ眠るしかしかたがないのです。

少々難かしいことですが、眠りの生理をお話ししましょう。彼らは、眠りであり眠りでない状態が続いているのです。このときの彼らの脳波には、普通、覚睡(めざましている)のときにみられる速波と、ノンレム睡眠(脳が休んでいるが、筋肉の緊張はうしなわれていない睡眠)にみられる徐波とが共に現れます。これは立ったままでいられるし、又、反芻(はんすう) (いったん食べたものを胃から口にもどして再びかみ下す)こともできる、うとうとした状態なのです。

一方、ゴロリと横になりだらっと眠るネコ科やイヌ科の仲間は、レム睡眠(眼球がよく動き、脳はめざましている状態で、筋肉の緊張が無くなっている睡眠)の時間が多いいわれています。

彼らは他の動物に襲われることが少なく、安全な穴ぐらや、巣などを作って眠るので草食動物と睡眠の様式が異なっています。

それぞれの動物達は、たがいに競合しないように生活域にちらばり、さまざまな生存上の行動様式と睡眠の様式が、長い時の流れの進化の過程で作り上げられて来たものと考えられています。ですから動物の睡眠にはびっくりするような眠り方があります。

左右の脳半球を交互に眠らせているイルカやカモメなどが知られています。

イルカは水中に住んでいますが、肺で呼吸をしているので、水中でレム睡眠が起こると、おぼれて死んでしまうので、脳の半分を眠らせて泳ぎ回ることができるようになっているそうです。カモメなど26種の鳥達は片目をつぶって眠っているそうです。このとき、閉じた目と反対側の脳半球には睡眠脳波がみられ、開いた目と反対側の脳半球には覚睡脳波が認められるのです。これは、休息場所の無い大空で飛びながら脳を半分づつ交互に休めていると考えられています。動物達は私達が想っているような睡眠とはちがった眠りを持っているのです。それは自分達の生存に深いかかわりを持ち、それぞれ精一パイに生きているのですね。

動物園暮しの動物達は十分な餌と安全な場所をもらっていますので、野生で暮しているときよりも長い時間を眠ることにあてることのできるのですが、草食動物達は本能から来る強い警戒心からでしょうか、夜もぐっすり眠っていないようです。

(権藤真禎)

(参考書 行動としての睡眠 鳥居鎮夫 青土社、睡眠の不思議 井上昌次郎 講談社現代新書)



動物科学資料館の手引③

～楽しく見るために～

◆動物とその環境(2) 食べる

動物には大きく分けて肉食、草食、雑食性のものがあります。体の構造もそれぞれの食べ物に合わせて違っています。いろいろな環境に応じて食べ物やくらし方をかえてきた動物たちが、今、生存しているのです。

このコーナーでは、食べ物と体の構造の違い、季節による食べ物の違いなどを実物標本や装置などで分かりやすく説明しています。

1. 四季による食べわけ

日本のように四季のある地方に住む動物は季節によって食べ物が変わります。ここでは日本を代表する動物キツネを例にとり、春はバッタやサクランボ、夏は昆虫や木の実、秋には小動物やアケビ、冬はノウサギやノネズミと四季による食べ物の違いを回転式の装置を使い、バックパネルとレプリカで説明しています。

2. 食性にあつた頭骨

動物は食べ物によって肉食獣、草食獣、雑食獣に大別され、それぞれの動物の頭やあごの骨や歯が違います。即ち、肉食獣では犬歯が発達し、あごの関節が丈夫にできていて、獲物にかみついたり、肉を切りとる時の激しい上下運動に耐えられるようになっています。草食獣では門歯や犬歯はあまり発達せずに臼歯がひき出すように大きく、あごの関節は上下左右に動く構造になり、草や木の葉を食べるのに適しています。雑草獣は、歯やあごの構造は肉食、草食の両方の機能を備え、肉と草どちらにも有利な形となっています。

このコーナーでは肉食獣としてオオカミ、トラ、アシカ、草食獣としてニホンカモシカ、カンガルー、雑食獣としてイノシシ、クロクマ、キツネの実物骨格標本を展示するとともに、ハーフミラーを使って3種の動物の頭骨を見せ、考えた後ボタン操作でその動物の実像が浮かび上がるクイズ式の展示もあります。

3. 食性にあつた口

鳥のくちばしは食べ物や食べ方によって形や構造がさまざまで、食べ物の質によっても使い方が違ってきます。

このコーナーでは8種類の鳥をシルエットと写真で示し、それぞれのくちばしの機能を人間が使う道具類で示しています。即ち

フラミンゴ→ふるい、ペンギン →ニッパ
ペリカン →バケツ、アヒル →ひばさみ
インコ →ペンチ、キツツキ →のみ
ヘラサギ →パンばさみ、ゴイサギ→やり
というように、一目見てくちばしの型や機能が分かる仕くみになっています。

4. 反すう胃

草食動物の中には、キリンやウシのように一度食べた食べ物を、もう一度口にもどしてゆっくりかみ下す動物があり、この行為を反すうと言います。これはかたい草や木の葉を急いで食べておき、安全な場所へ移ってから消化をよくするため再びかみ直すもので、身を守るための手段でもあります。

このコーナーでは、この反すうの仕くみと食べたものの通る道すじをパネルで解説しています。

(谷岡正之)



トピックス (63年3月～63年6月)

◆春休みの催し物

動物科学資料館が、3月21日でオープン1周年を迎えました。これを記念して、いろいろな催しを行いました。



• にんげん動物展 (3月19日～7月5日)

「人間」をテーマに、他の動物との比較、サルからヒトへの進化などを、パネル、映像、骨格標本で説明しました。

• 動物ファミリー劇場 (3月21日)

かわいい動物のぬいぐるみショーとアニメ映画の上映を行いました。

• アニマルマップクイズ (3月25日～4月7日)

• 春休み動物映画大会 (3月25日～4月7日)

• クロシロコロボス愛称募集 (3月25日～4月7日)

1056通の応募の中から、オス「クロロ」、メス「シロロ」に決定し、6月19日に命名式を行いました。



◆ユキヒョウにお婿さん (5月4日)

今年2月に、札幌・円山動物園から来たユキヒョウ (ユキエ・雌) に、スイス・バーゼル動物園から雄が婿入りしました。この雄は「ザルツ」と名付けられ、1頭でさびしそだった「ユキエ」も元気になりました。

今後は早く2世誕生を、と期待しています。

◆熱帯の鳥を温室で放し飼い (6月16日)

太陽の動物舎にある温室で、キハタオリドリ、ホウオウジャク、ベニビタイキンランチョウ、セイキョウ、コウギョクチョウの5種、120羽の小鳥を放し飼いしています。これらの小鳥はすべて色鮮やかで美しく、入園者の目を楽しませています。

◆その他の来園

カピバラ (5月18日、姫路セントラルパークより)

ミミナガヤギ (5月18日、フェニックス自然動物園より)

◆赤ちゃん続々と誕生

4月から6月にかけて、フラミンゴ、ヒョウ、ヨザル、シュバシコウ、キリン、ベニガオザル、ブラザグェノンの赤ちゃんが次々に生まれ、元気に育っています。



◆動物をはかる会 開催 (6月19日)

計量記念日にちなみ毎年開催しているもので、今年は、カカバ、ミミナガヤギ、ロバの計3頭を計量し、その合計体重を当ててもらいました。

結果は、カカバ 171kg、ミミナガヤギ35kg、ロバ74kgの計 280kgとなり、30名の正解者の中から抽選でピタリ賞1名、近いで賞10名を選びました。
(村井秀徳)

クイズの答え ①-ペリカン ②-オジロワシ ③-フラミンゴ ④-ヘラサギ
⑤-ショウジョウトキ ⑥-インコ

切手の中の動物たち ① ネコ科の仲間



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

- ①ヒョウ(アフガニスタン) ②オオヤマネコ(ハンガリー) ③オセロット(パラグアイ) ④チーター(ケニア) ⑤ウンピョウ(マレーシア) ⑥ピューマ(ニカラグア) ⑦イリオモテヤマネコ(日本)
 ⑧フロヒョウ(キューバ) ⑨ヨーロッパヤマネコ(イギリス) ⑩ジャガー(ポーランド) ⑪東北トラ(中国) ⑫ライオン(チェコスロバキア) ⑬ユキヒョウ(ソビエト) ⑭カラカル(マダガスカル)
 ⑮サーバルキャット(アルジェリア) ⑯トラ(ラオス)

◆編集後記◆

はばたき24号をお届けします。満開の桜、動物のベビーラッシュなどにぎやかだった春が過ぎ、いよいよ本格的な夏の到来です。夏休みになると、子供たちは海へ、また山へ出かけ、動物園は少し寂しくなります。でも動物たちは、神戸の夏の暑さに負けず元気にとびはね、木陰に入ると、さわやかな風に心が洗われます。夏の動物園もなかなか良いものです。



63全国高校総体
63.7.31～8.20



はばたき 第24号

昭和63年7月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社